

多文化公共圏センター・ワーキングペーパーシリーズの 取り組み

センターコーディネーター 田宮 純子

多文化公共圏センター（CMPS）では今年度、その機能強化の一環として新たにワーキングペーパーシリーズの創設に取り組んだ。これは、センター内の様々な事業に、多文化公共圏という共通したテーマの下、ある程度の一貫性を与えようという趣旨に基づいて行われる。

過去における事業では、センターの下で展開されているという共通点はあるものの、それぞれの背景や焦点は互いに大きく異なり、活動も独自で行われるため、事業同士の横のつながりが見えにくかった。これは事業ごとに作成する報告書や論文にも言えることであり、過去にCMPSの下で発行された文献は、各事業に携わる者が個別に執筆、編集及び発行していたため、CMPS全体の成果としてどのような文献が過去に発行されたかを俯瞰することが難しかった。

今回、こうした状況を改善し、更に各事業において活動を行う者に対し、自身の業績を広く公開する場を与えるべく、CMPSに属する事業で作成する文書を一連のワーキングペーパーシリーズにまとめようという決定がなされた。ただし、多岐にわたる事業の多様な報告書を単一のフォーマットに統一するのは非現実的であるため、まずはワーキングペーパーシリーズとしての資格を満たす最低限のルールを定め、通番を付した表紙をつけることから取り組みを始めることになった。

ワーキングペーパーが満たすべき基準はごく基本的なもので、CMPSの事業に関わる研究報告や、セミナー資料、講演スクリプトを含む活動報告であること、出版/雑誌への掲載前の段

階のものであること、フィードバックやディスカッションを通じて更なる研究や議論を奨励する内容であるもの、等が決められた。

更に、表紙とロゴのデザインを決定した。その際、表紙以外のフォーマットは著者の自由としたことに加え、これらの表紙も、各文書のスタイルに合わせて色を変えることや、著者が独自の表紙を作成することを希望する場合にはこれにロゴを付すのみとすることも認め、柔軟性を持たせることにした。センター名と発行番号を表紙に掲載することにより、センターが各年度に発行する文書の数や順序の把握が容易になるであろう（以下の図を参照）。

上に挙げた点はいずれも、事業間に目に見える一貫性を与える一方で、自由度も確保するよう意図されている。ワーキングペーパー自体は、今年度終盤になりようやく初めの数版が発行される見込みであるが、それらから得られる洞察をもとに、今後は更なる改良を重ねていくことになる。

